

家庭内事故の日・英・仏比較にもとづく一考察

○ 正会員 在塚 礼子

1. 研究目的

高齢化の進展とともに、住居内の不慮の事故で死亡する高齢者が年々増加している。人口動態統計によると、その要因の一位は「同一平面上の転倒」または「浴槽等での溺死」であるが、この結果をもたらし条件のひとつとして日本の住様式をあげることができる。転倒については段差の多い床面の構成や、床座であることによって床面に多くの物が置かれがちであること、また溺死は、入浴の習慣と合わせて浴槽の形式がかかわっていると判断されるからである。住居内の不慮の事故に関する日本の独自性を、外国との比較を通して確認することが本研究の目的である。

2. 研究方法

住居内の不慮の事故について、入手可能な統計資料を用いて分析、比較する。その際、各資料の性質の違いに配慮する。結果的に、日本については東京消防庁の「救急活動の実態に関する統計・1991年」、外国についてはイギリスの「HASS (Home Accident Surveillance System 家庭内事故監視システム) 1988年」と、フランスの「EHLASS (European Home And Leisure Accident Surveillance System 家庭内・レジャー事故欧州監視システム) 1987年」をとりあげることができた。

3. 各資料の選定理由と特質

不慮の事故に関する資料としては、死亡統計と危害情報統計があるが、外国の資料のうち入手が可能であった危害情報統計を用いることとした。欧米において整いつつある危害情報システムは、主として病院の救急治療の対象事例の情報を収集するシステムである。

これに対応する日本の情報としては、通産省の事故情報システムと国民生活センターの危害情報システムがあり、後者には消費者センターに寄せられた苦情や相談からの情報収集と、全国8病院からの商品関連事故情報の収集がある。しかし、英仏のものと比較すると、商品関連への限定や協力病院の少なさなどによって対象の範囲が狭く、情報が限られている。

そこで、本研究では、地域は限定されているが、家庭内の不慮の事故による危害の全体像を把握できる東京消防庁の統計を用いることとした。

4. 結果と考察

1) 日本の家庭内事故は、英仏と比較して際立った特徴を示す。

2) 日本では発生場所としては居室が多く、台所が少ない。階段や浴室での発生率には3国の違いがあまりみられない(図1)。

3) 受傷形態としては3国とも、転倒・転落が多いが、日本ではとくに転倒が高率である(図2)。これは人口動態統計での死亡原因と共通する傾向である。

4) 被害者の年齢構成も特徴的であり、日本では65歳以上の高齢者が36.2%のぼるのに対して、イギリスでは12.2%、フランスでは6.8%にとどまっている(図3)。しかし、この日本の特徴も、近年6割を超えに至った死亡事故の高齢者率よりは低率である。

5) 日本における特徴のうちの2点は互いに関連しており、高齢になるほど転倒の率が高まる傾向がみられる(図4)。英仏における高齢者率の低さは、転倒事故の起きにくい状況によってもたらされているとみることができよう。(あるいは統計上、高齢者が顕在化しにくい状況があるとすれば、それが転倒事故の統計上の少なさを生んでいることになる。)

6) ただし、イギリスの家庭内死亡事故データベース(救急治療室で死亡するとHASSから分離記録される)によれば、高齢者率は70.4%と、日本の人口動態統計との乖離はみられず、また高齢者での転倒・転落率が著しく高いことも共通している(図5)。

7) 転倒に関して、より詳細な受傷形態がわかるイギリスにおいては、転倒と段差の関係に発生場所による明らかな違いがみられる。寝室においてのみ段差による転倒の率が高いが、他では平地での転倒による率が高い(図6)。段差による転倒は実数でも寝室で最多である。要因としては寝室の構造だけでなく、その他の環境条件や心身の状態なども含まれていると考えられる。

8) 異なる条件下での統計資料の比較には慎重さが必要であるが、考察のてがかりとしての意味はありそうに思われる。危害情報システムの充実も求められる。

資料の収集と分析には、埼玉大学卒業生・南部聡子さんの協力を得ました。記して感謝します。

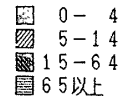
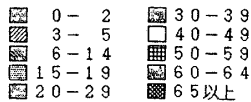
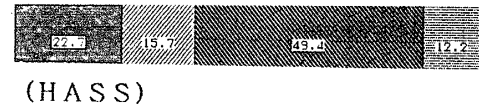
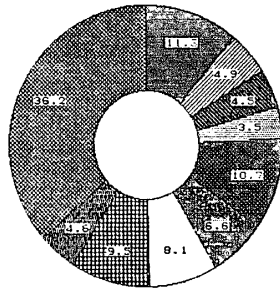
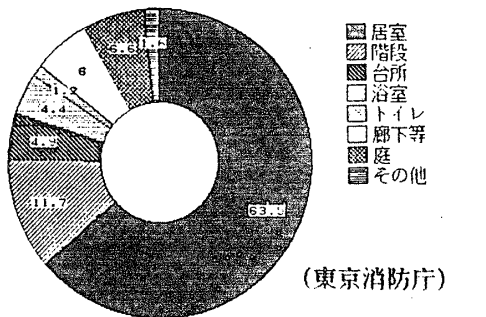


図3 年齢構成

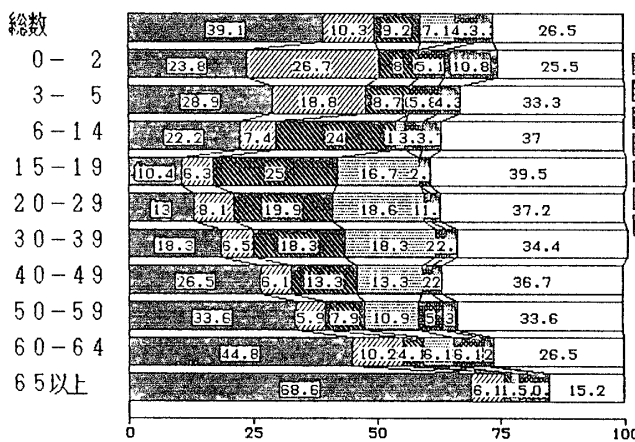
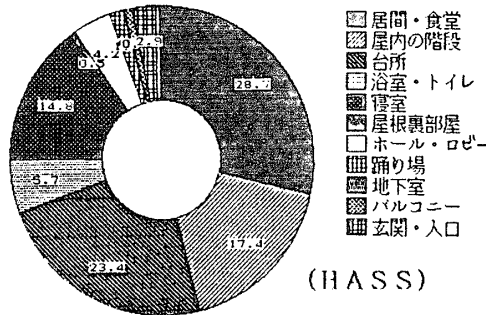


図1 事故の発生場所

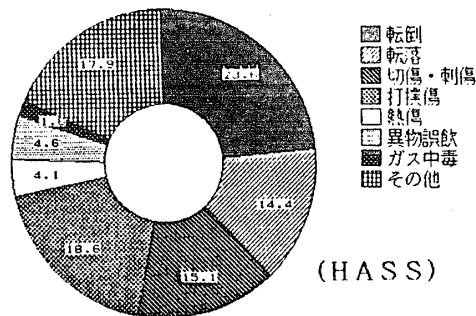
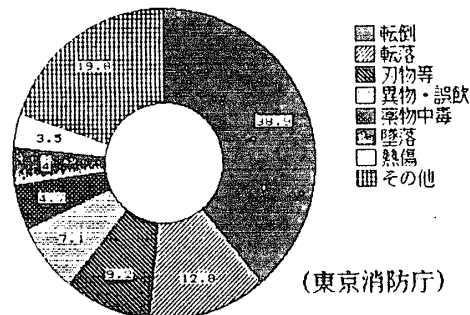


図4 居室での年齢別受傷形態 (東京消防庁)

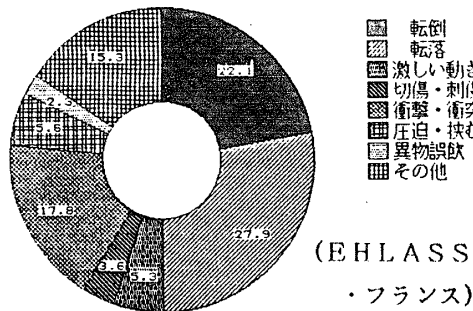
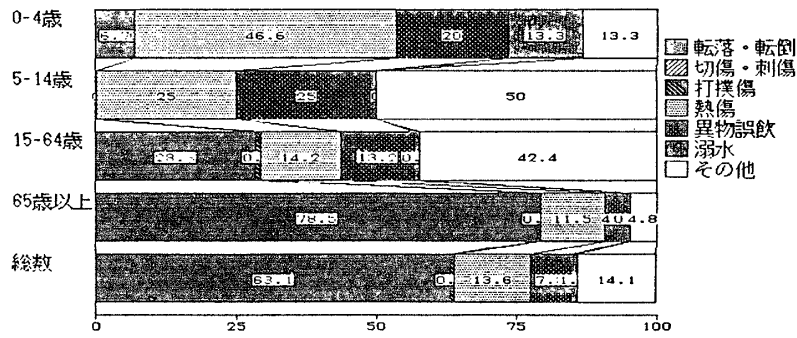


図5 年齢別受傷形態 (イギリス家庭内死亡事故・HADD)

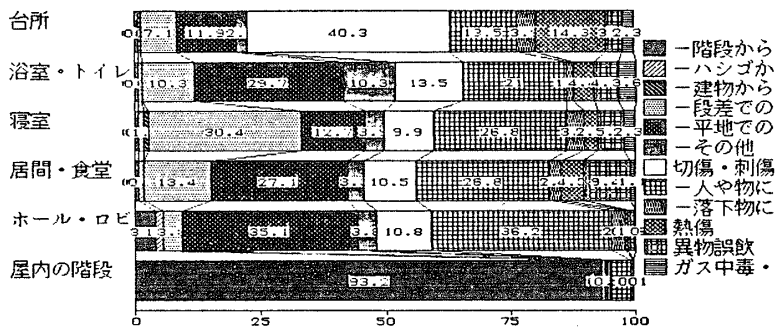


図2 受傷形態

図6 発生場所別受傷形態の詳細 (HASS)